

令和6（2024）年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業

通いの場などの介護予防に資する取組の効果的な 普及啓発の手法に関する調査研究事業

調査報告

ー 通いの場参加促進の工夫ヒアリング調査より ー

一般社団法人 日本老年学的評価研究機構（JAGES機構）

2025年3月10日

本日の内容

- ・ 事業の概要
- ・ 通いの場と工夫のフレームワーク
- ・ 通いの場参加促進の工夫
- ・ 工夫の活用方法

事業の概要

目的：高齢者人口を多く抱える首都圏では、介護予防の取組を促進し、要介護になる人数を減らすことが肝要であるが、プレフレイル・フレイルが疑われる対象者への効果的な参加の働きかけや取組の定着に課題感を持つ自治体は多い。自治体職員による高齢者への対面・電話で通いの場などへの参加勧奨は効果的ではあるが、人的資源の制約上限界がある一方で、書面などによる勧奨は一定の効果が見込まれるものの、参加に無関心な人の意欲を引き出すまで至っておらず、継続的な参加を維持するなどの効果的なアプローチが求められている。このような状況を踏まえ、本事業では参加に無関心な人や軽度の認知症を抱えた人などでも思わず参加したいと心が動くような働きかけとはどのようなものか、また多くの対象者に対して拡げ定着させていく手法とはどのようなものか、を検討する。

ヒアリング対象自治体：
関東信越厚生局管内の10自治体

区分1 (3千人未満)
区分2 (3千人以上1万人未満)
区分3 (1万人以上5万人未満)
区分4 (5万人以上10万人未満)
区分5 (10万人以上)

分類	区分	自治体名
小規模	区分1	長野県豊丘村
小規模	区分2	群馬県玉村町
小規模	区分2	長野県富士見町
小規模	区分2	栃木県上三川町
中規模	区分3	新潟県柏崎市
中規模	区分4	山梨県甲府市
中規模	区分4	千葉県八千代市
大規模	区分5	東京都葛飾区
大規模	区分5	東京都八王子市
大規模	区分5	千葉県千葉市

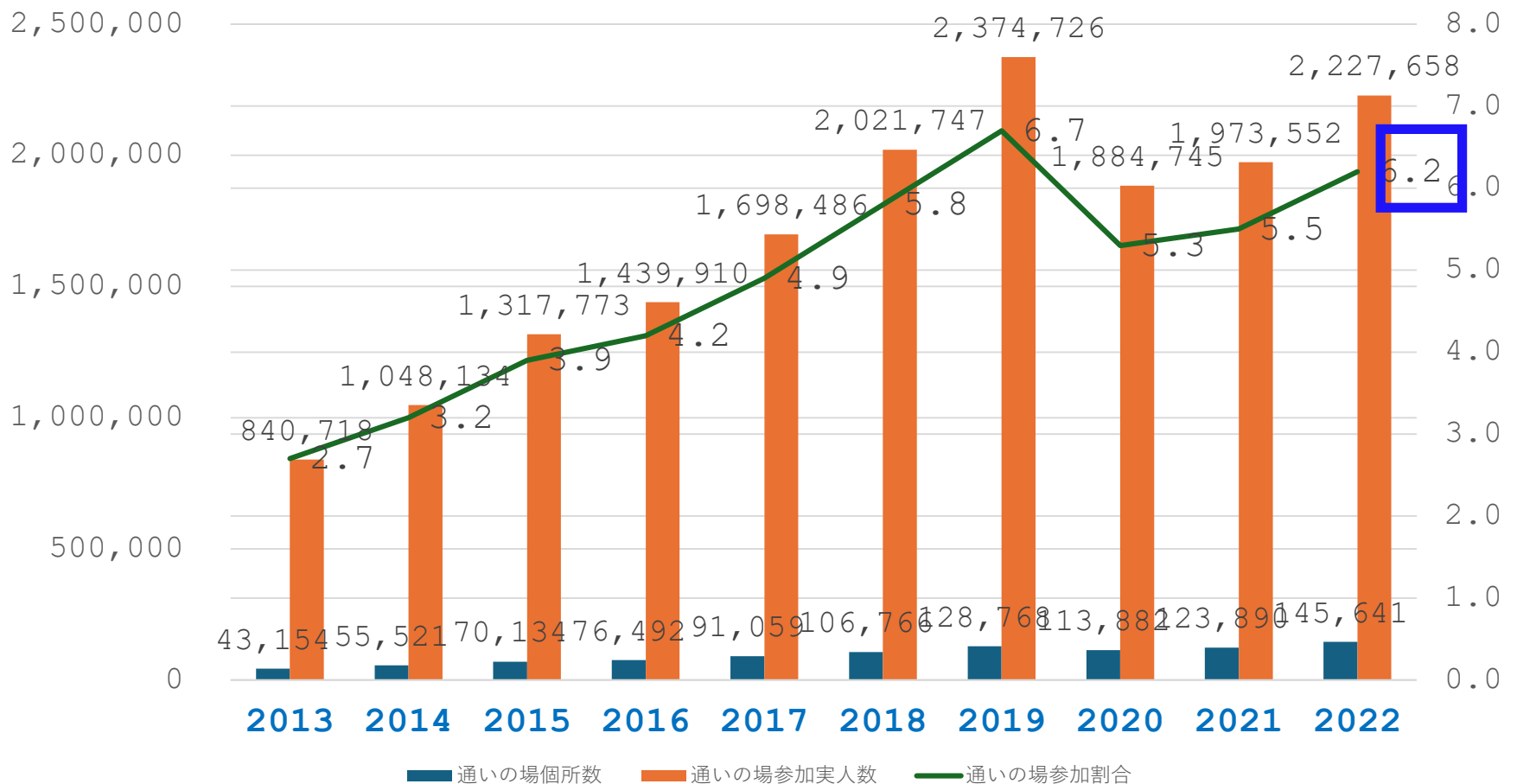
本日の内容

- ・ 事業の概要
- ・ 通いの場と工夫のフレームワーク
- ・ 通いの場参加促進の工夫
- ・ 工夫の活用方法

住民主体の
「通いの場」

通いの場参加者数、箇所推移、参加率の推移 (月1回以上)

人 **コロナで2019年に一度減少後、再び増加傾向！ R4は全国平均6.2%** %



通いの場・箇所数：厚生労働省 介護予防・日常生活支援総合事業報告、介護予防に資する住民主体の通いの場の展開状況

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/yobou/index.html

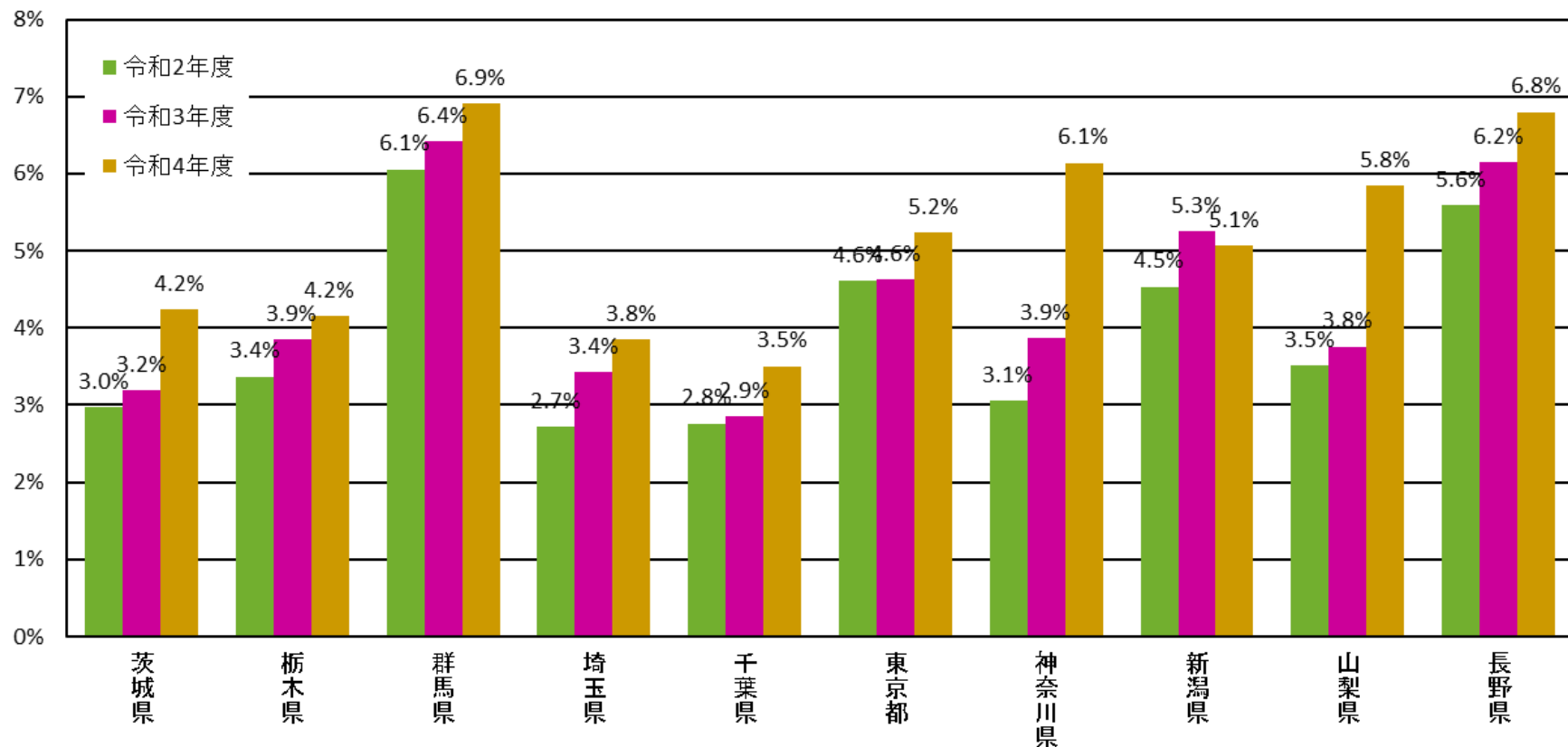
高齢者数：総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査より

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200241&tstat=000001039591&cycle=7&tclass1=000001039601&tclass2val=0>

住民主体の
「通いの場」

通いの場参加率の推移：関東信越地域9都県 (月1回以上)

R4の9都県平均5.7%、3.5～6.9%の地域差



一般介護予防は、通いの場（社会参加型）へシフト

従前の介護予防（ハイリスクアプローチ）

専門職などが主導
した介護予防教室

行政が**提供者**・住民が**受給者**

狭義の通いの場

平成26年
地域づくりによる
介護予防

これからの介護予防（ポピュレーションアプローチ）

住民が**運営者**・行政が**支援者**

広義の通いの場

令和元年
厚生労働省一般介護
予防検討会指針

通いの場の**多様性・機能強化**
PDCA に沿った事業展開

本事業における通いの場の分類について

行政主導の 通いの場

行政もしくは行政に委託を受けた団体が企画運営をする通いの場。住民が講師を務めたり、ボランティアとして参加する場合もある。

運営 ※

住民個人(有志・ボランティア等)
住民団体(自治会、NPO法人等)
行政(介護予防担当部局)
行政(介護予防担当部局以外)
社会福祉協議会
専門職団体
医療機関(病院、診療所、薬局等)
介護関係施設・事業所
民間企業

場所

個人宅・空き家
公民館・自治会館・集会所
公園
農園
学校・廃校
医療機関の空きスペース
介護関係施設・事業所の空きスペース
店舗の空きスペース・空き店舗

活動

体操(運動)
会食
茶話会
認知症予防
趣味活動
農作業
生涯学習
ボランティア活動
就労的活動
多世代交流

※住民以外が運営する場合でも、住民が主体的に取り組むことに留意すること

＜「通いの場」の捉え方＞ 上記の類型化も参考に、

- ① 介護予防に資すると市町村が判断する通いの場であること
- ② 住民が主体的に取り組んでいること
- ③ 通いの場の運営について、市町村が財政的支援を行っているものに限らないこと
- ④ 月1回以上の活動実績があるもの

なお、類型化で示しているものは例示であり、多様な通いの場の取組が展開されるよう、今後も先進的な事例等を参考に更新予定

「一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会取りまとめ」を踏まえ、明確化する範囲

本事業における通いの場の分類について

住民主体の 通いの場

住民自身が立ち上げた通いの場。立ち上げや継続に行政の支援がある場合や、行政の支援比重を段階的に住民側に移行している過渡期にある通いの場の場合もある。

運営 ※

住民個人(有志・ボランティア等)
住民団体(自治会、NPO法人等)
行政(介護予防担当部局)
行政(介護予防担当部局以外)
社会福祉協議会
専門職団体
医療機関(病院、診療所、薬局等)
介護関係施設・事業所
民間企業

場所

個人宅・空き家
公民館・自治会館・集会所
公園
農園
学校・廃校
医療機関の空きスペース
介護関係施設・事業所の空きスペース
店舗の空きスペース・空き店舗

活動

体操(運動)
会食
茶話会
認知症予防
趣味活動
農作業
生涯学習
ボランティア活動
就労的活動
多世代交流

※住民以外が運営する場合でも、住民が主体的に取り組むことに留意すること

＜「通いの場」の捉え方＞ 上記の類型化も参考に、

- ① 介護予防に資すると市町村が判断する通いの場であること
- ② 住民が主体的に取り組んでいること
- ③ 通いの場の運営について、市町村が財政的支援を行っているものに限らないこと
- ④ 月1回以上の活動実績があるもの

なお、類型化で示しているものは例示であり、多様な通いの場の取組が展開されるよう、今後も先進的な事例等を参考に更新予定

「一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会取りまとめ」を踏まえ、明確化する範囲

本事業における通いの場の分類について

その他の主 体による 通いの場

介護予防担当局
以外の行政や住民
主体以外が運営す
る通いの場。

運営 ※

住民個人(有志・ボランティア等)
住民団体(自治会、NPO法人等)
行政(介護予防担当部局)
行政(介護予防担当部局以外)
社会福祉協議会
専門職団体
医療機関(病院、診療所、薬局等)
介護関係施設・事業所
民間企業

場所

個人宅・空き家
公民館・自治会館・集会所
公園
農園
学校・廃校
医療機関の空きスペース
介護関係施設・事業所の空きスペース
店舗の空きスペース・空き店舗

活動

体操(運動)
会食
茶話会
認知症予防
趣味活動
農作業
生涯学習
ボランティア活動
就労的活動
多世代交流

※住民以外が運営する場合でも、住民が主体的に取り組むことに留意すること

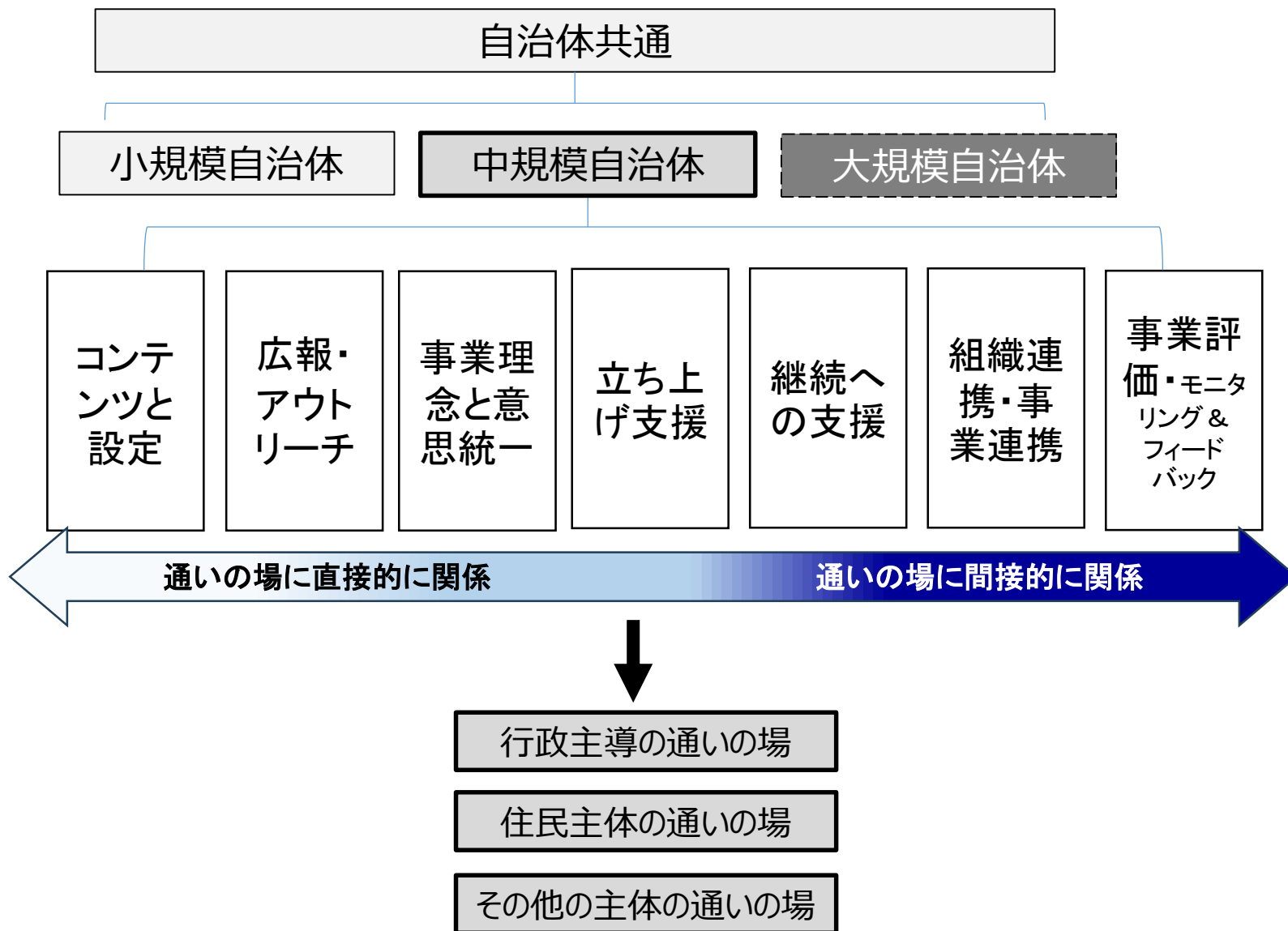
＜「通いの場」の捉え方＞ 上記の類型化も参考に、

- ① 介護予防に資すると市町村が判断する通いの場であること
- ② 住民が主体的に取り組んでいること
- ③ 通いの場の運営について、市町村が財政的支援を行っているものに限らないこと
- ④ 月1回以上の活動実績があるもの

なお、類型化で示しているものは例示であり、多様な通いの場の取組が展開されるよう、今後も先進的な事例等を参考に更新予定

「一般介護予防事業等の推進方策に関する
検討会取りまとめ」を踏まえ、明確化する範囲

ヒアリングデータ整理のフレームワーク案



本日の内容

- ・ 事業の概要
- ・ 通いの場と工夫のフレームワーク
- ・ 通いの場参加促進の工夫
- ・ 工夫の活用方法

通いの場の参加促進：自治体共通の工夫

コンテンツと設定：自治体共通

飲酒付きサロン、おつまみ料理教室、グランドゴルフ、機材を使った体力測定、健康マージャン、筋トレ講座、麻雀教室、野外での体操教室など男性(認知症の方含め)の方が入りやすい内容へ工夫

ポイント制度を導入して通いの場、ボランティア活動、講座への参加にメリットを用意

体力測定や脳年齢測定、安全運転講習、入浴、フレイルなど、皆が興味あるコンテンツでイベントや集まりを積極的に開催し、参加の機会を増やす

広報・アウトリーチ：自治体共通

広報紙、市政だより、HP、ポスター掲示、回覧板、チラシ配布などで開催告知

参加者の知人・友人への勧誘を勧める

包括、社協、民生委員、地区担当の保健師などの高齢者世帯・高齢者単身世帯訪問の機会に通いの場を案内

一体的実施でフレイル等リスクのある方に訪問などでコンタクト、必要時通いの場を紹介

相談のあった時に、相談者の状況にあった場や手段を紹介

間接的な工夫組織連携・事業連携：共通共通

民生委員、生活支援コーディネーターなど住民の近くが存在が支援が必要な方の情報を適宜把握し、アウトリーチやその他のサービスへ情報提供する仕組み

生活支援体制整備の2層協議体会議、一体的実施の連携会議などの定期会議の機会での情報共有を行う

一体的実施に関する関連課の定期的な打ち合わせ

シニアクラブ、愛育会、自治会組織、公民館活動、民間の組織、趣味のグループなど、多様な場について多様なルートから情報入手し把握

立ち上げ支援：自治体共通

ボランティア養成講座、リーダー養成講座など終了後の活動を意識し育成、参加した方を立ち上げのキーパーソンになるようリクルート

立ち上げからの、行政の支援は期限付き、主体はあくまでも住民、行政は後方支援等を伝えた上での支援

継続への支援：自治体共通

自主グループや居場所同士の情報交換会の開催、他の成功事例や工夫の情報交換の場、課題の意見交換の場を確保

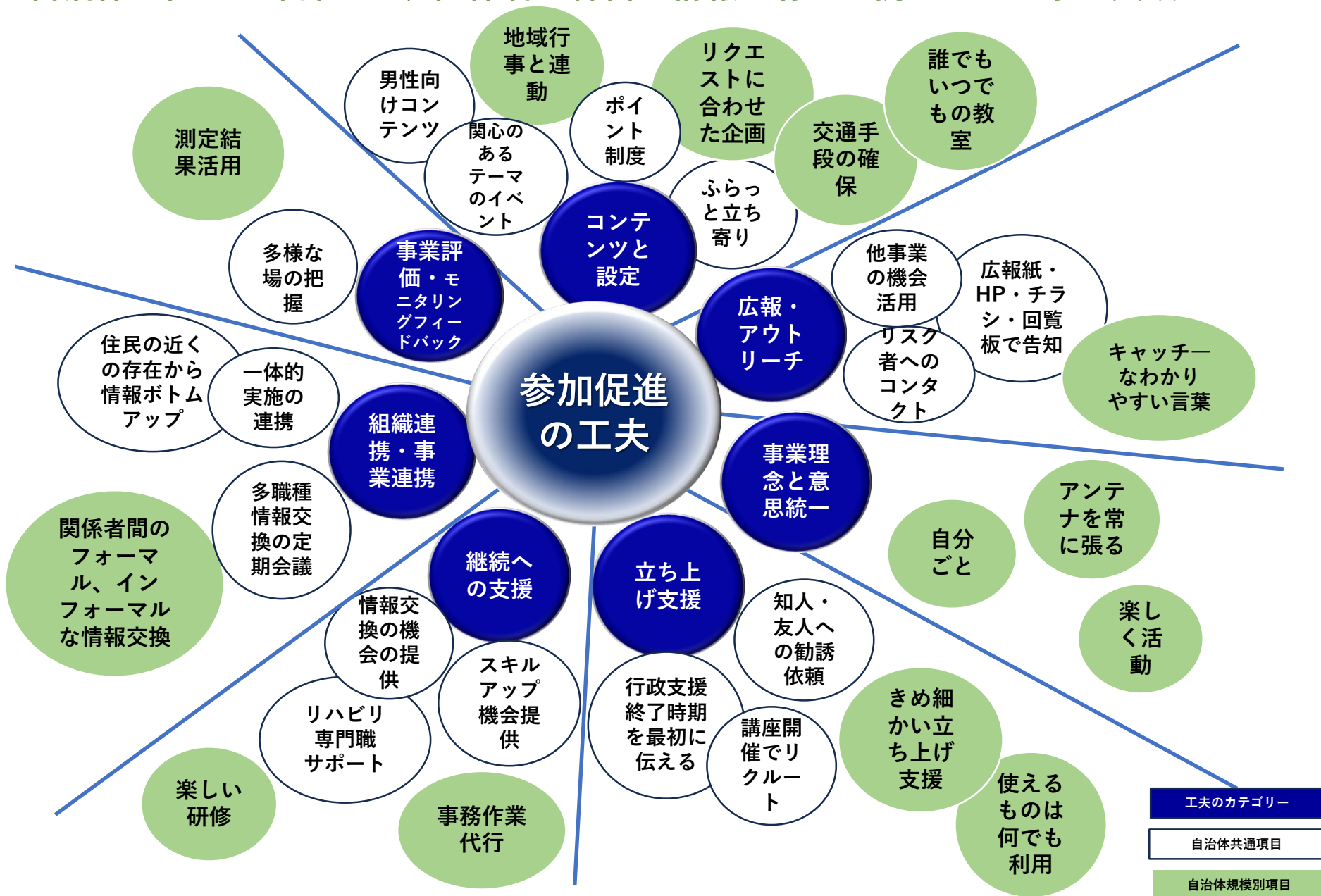
スキルアップ講座や定期会議や専門家派遣などを通して、継続開催のモチベーションやアイディアのインプットを行う

事業評価・モニタリングフィードバック：自治体共通

自治会の集まり、公民館活動、老人会の活動など、小さい自主グループなど、把握はするが参加者のカウントは不可

通いの場の参加促進：小規模自治体

自治体と住民の距離近く、関係者の綿密な情報共有と連携による丁寧な支援



通いの場の参加促進：小規模自治体の工夫

コンテンツと設定：小規模自治体

介護度によるサービスの区別を取り払い、予約や登録不要とすることで参加者が増加**誰でも好きな枠に予約なしで好きな時に参加でき、かつ相談に応じることができる場**を作り、あらゆる人が参加できる受け皿を用意

地区担当保健師が健康相談や健康情報の提供

興味のある活動や**住民の声から単発のイベント**を多く開催、そこから通いの場の参加へ繋げる

歌声、体操、体操など**住民のリクエストがあったコンテンツ**を提供

保健センターのプール、歩行距離表示のある外周トラック、各団体の集まりに活用できる会議室など**公共の施設の充足**による利用促進

コロナ禍の危機をチャンスに変えた**青空体操教室の促進**

地元の作曲家体操にあった曲を作曲

人気のある行事（バスハイク）を一部行政の補助によりサロンやミニデイで行えるようにする。

1人参加の方が参加しやすくなるよう**1人暮らしの人用の席**を設置

頻度が多い方が繋がりがやすいので月1回ではなく基本的に週1回の開催での行動変容を促し

楽しく肯定的で受容的な雰囲気づくり、体力測定を行わない等、**完成度を求めないレベル設定**

警察と連携し、横断歩道を渡り切れない等で起きた事故を踏まえた交通安全教室の開催

サロンなどのイベント時の**バスを貸し出しや、サロン補助金を活用した乗り合い福祉タクシー利用**

市のデマンド型車両運用により移動手段の確保

他に手段がない方の**専用車両による個別送迎**

送迎ボランティア（運転）講習の開催

小学校区単位のサロンと、その範囲では通えない住民が**身近な地域で通える自治会単位のミニサロンの設置**

買い物のニーズに、社会福祉協議会のサービスである**送迎サービス**を立ち上げ

広報・アウトリーチ：小規模自治体

広報に**カラー写真**を多く使い、人気のある活動や楽しそうな雰囲気が伝わるよう作成

回覧板を、男性の気を引く内容になるよう表現を工夫

アンケートの結果返却、イベントや他事業、その他郵送時の際に**チラシ等の同封**

「地域デビュー」と言う言葉の活用で、**キャッチーな心に刺さるフレーズ**で広報

教室やイベントの開催時期は冬場や農繁期を避けるなど、**開催月の季節性**の考慮

お祭りや敬老会が盛んで、地区によっては敬老会がミニデイを実施

前期高齢者をターゲットに**オンラインによる申し込みルート**を確保

民生委員に実際に通いの場に参加してもらって、内容を把握したうえで訪問時に情報提供

通所型サービスCの参加者の活動終了時に参加の呼びかけ

事業理念と意思統一：小規模自治体

社会福祉協議会、地域包括支援センターなどの関係者が**「自分ごと」として高齢者の介護予防**に向き合う

楽しくて行きたい場所があることが一番の介護予防につながり、結果はその先にあるという理念

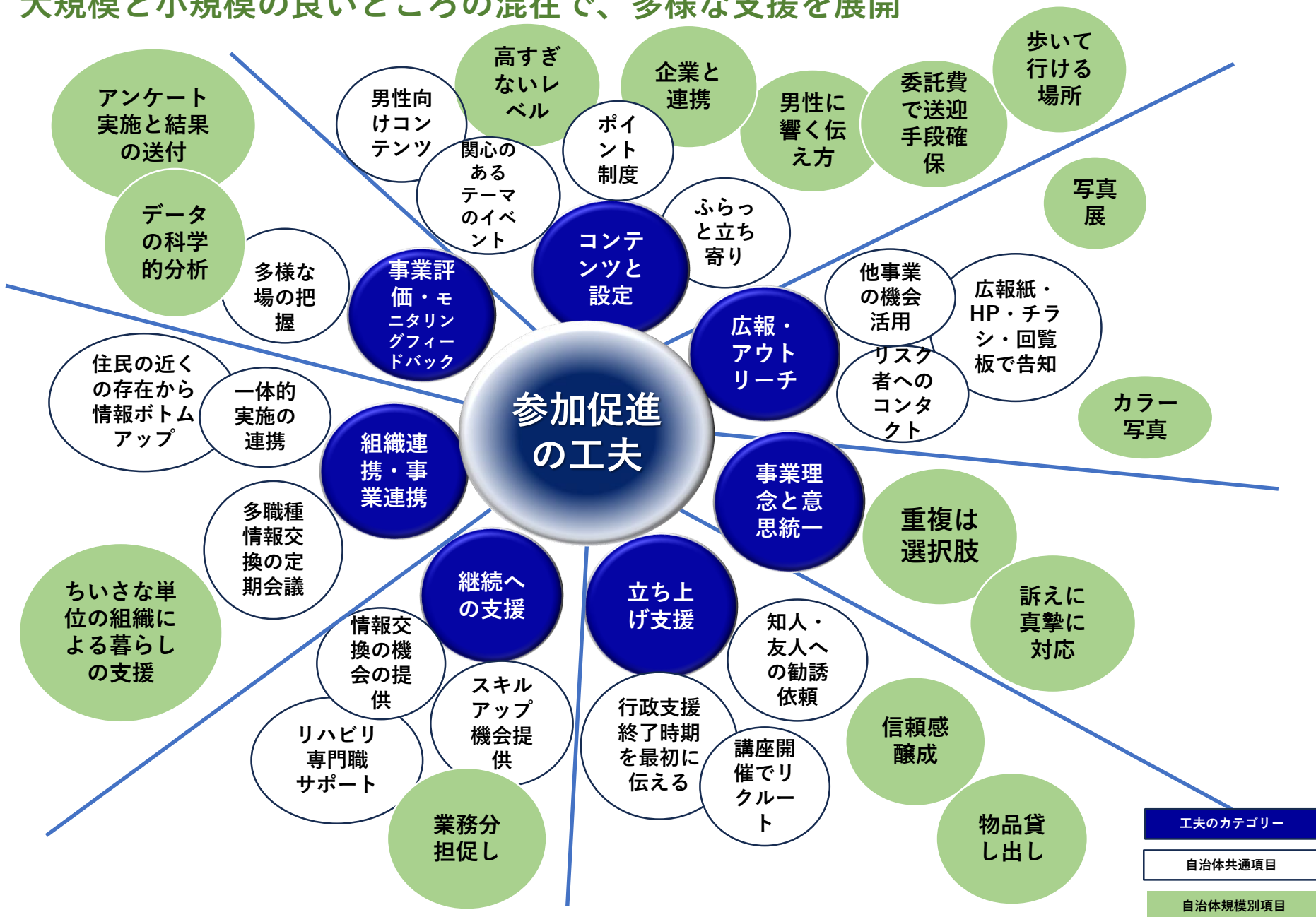
事業や参加資格など**対象者の枠**にとらわれず、まずは参加することを大切にする

町全体で介護予防に活用できる場やニーズのある方に アンテナを常に張る 。アイディアはすぐ共有し検討
「 通いの場につないでもらう 」ことを機会があるたびに、住民に、関係機関に言い続ける
高齢者が孤立しない手段の一つ としての「通いの場」の在り方、行けば誰かに会える場として支援
「 誰でも参加できる 、週1回以上の実施を目標とした通いの場で 楽しく活動する 」という共通目標を関係者間で常に共有
行政も住民も、常に手軽に行政に相談・提案する文化を作ること、活動の新陳代謝を図る
「 くろねえ会議（2層協議体） 」を普及する、という社会福祉協議会の方向性を市でも全面的に支援
立ち上げ支援：小規模自治体
行政(社協)が主体となってグループや事業の立ち上げ支援をし、 住民主体のグループの立ち上げに段階的に移行
行政がどこまで支援するのか、 最初に具体的に伝える
リーダーを一定期間継続して養成
立ち上げ時の支援を行う「 楽しく隊 」の立ち上げと派遣、説明会の開催、講師の派遣
体操やストレッチのDVDの配布による コンテンツ支援によるリーダーの負担減
サポーター講座に来てくれた人に 常に連絡を取る、活動に積極的に誘う
継続への支援：小規模自治体
常にアンテナを張って 、モチベーションアップに繋がるコンテンツを探求
後継者がいなくなった通いの場は、 別の通いの場への参加を支援 し継続した居場所を確保
筋トレ自主グループの代表を 月毎輪番制、年毎輪番制 としたり、地域の健康の委員担当者が代表兼務などで固定しない工夫
育成したサポーターの交流会を開催、 仲間づくりから居場所の立ち上げ に繋げる
行政主体の通いの場内で基本チェックリストを実施し、その結果から 必要な人に家庭訪問を実施
楽しいをキーワードに、ボランティア講座や定期会議でもパロディ劇や面白いコンテンツを含め、 介護予防の活動は楽しいことだというイメージを醸成
民生委員がサロンの運営委員として、 一緒に計画立案したり、コロナ禍で活動できない期間も食事を届ける など参加者との関係性構築から継続参加や継続開催を支援
地域の実情とニーズに合わせた展開 を心掛け、枠組みにこだわりすぎずフレキシブルに対応
60歳になるとシニアクラブに全員参加の地域があり、 シニアクラブの参加をとおして通いの場の参加に繋げる 。
コロナ禍の中断中も、安全に運営できる方法などの工夫やガイドラインを都度更新で 参加の交通手段の確保を維持
場所の用意と集ってお茶飲むだけでも可能としサロン運営のハードルを下げる
組織連携・事業連携：小規模自治体
自治体職員、地域包括支援センター、民生委員、社協、ケアマネなど関係者と 密に地域の情報共有を行い連携
町内の 各セクションが常に情報交換 をし、打ち合わせや打ち合わせ以外にも常に情報交換
地域の様々な打ち合わせや 地域の集まりに頻繁に顔を出し 、行政との意思を共有
小規模が故の一人複数事業担当で多くの企画や会議に参加するため、 事業横断的な発想が可能
保健センターや病院のリハ職との連携、地域包括支援センターと病院が常に連携
介護サービスが必要でも、 デイサービスの前に先に社会参加に慣れてもらう手段 として行政主導の通いの場を活用

地域に関心のある方が 地域の課題を話し合う2層協議体の会議が地域の課題解決と情報共有 を行い、そこからボトムアップして課題が共有される仕組み
各サロンからの要請時に、ボランティアグループ「 楽らく隊 」が 通いの場の事務作業 をサポート
地域住民の情報収集やサロンについての理解の促進や情報収集の手段として、 民生委員が地区のサロンやミニデイに参加
行政の保健師がサロンやミニデイに出向き、 講義や血圧測定
事業評価・モニタリングフィードバック：小規模自治体
大学と一緒に 通いの場に行かない理由、フレイルチェックの調査 を施行、大学が開発した様式で結果を個人にフィードバック、機能が落ちていても諦めないよう元気づけ。転倒が多い地域では転倒予防教室の提案
ミニデイでは年に1回チェックリストの結果を 個人ごとに残して、状況把握 。リスクが高い方には総合事業参加を包括支援センターから声がけ
保健師が管理しているデータから 高齢者の健康問題を把握（高血圧と糖尿病） 生活指導や食事指導、健康講座など活動に生かしている。 希望者がいつでも身体機能を 測定評価できるシステムを教室に設置 、結果を次回フィードバック

通いの場の参加促進：中規模自治体

大規模と小規模の良いところの混在で、多様な支援を展開



通いの場の参加促進：中規模自治体の工夫

コンテンツと設定：中規模自治体

地区内の複数サロンによる健康体操やバーベキュー大会を開催などの交流
リハ職などが定期的に体操教室の指導、フォローアップ研修、自治体の体操を作ってCDやDVD配布、支援マニュアルを作成など、**技術支援実施**
室内グランドゴルフ、カードゲームなどレクリエーション用具の貸し出し
体力が落ちている参加者も参加できるように、**座位でのコンテンツ**を取り入れる
スタンプカードの利用、カードにフィードバックを記載するなど、参加者の継続参加への支援をフォローアップ
地区担当保健師が**健康相談や健康情報の提供**
楽しく肯定的で受容的な雰囲気づくり、体力測定を行わない等、**完成度を求めないレベル設定**
MCI(軽度認知障害)の方への配慮など、**参加者同志での助け合いと共存について検討**してもらう
商業施設を活用、事前参加登録不要など、**ついで参加ができる場の用意**
有償ボランティアや社協で支援しているボランティア活動を、「**地域のお仕事**」という形での男性参加促進を検討
自分で行ける範囲であれば**所属自治会の会**でなくても参加可能
コミュニティ単位でくらしのサポートセンターを立ち上げ、**委託費から移動手段を確保**
歩いて行ける距離に設置

広報・アウトリーチ：中規模自治体

広報に**カラー写真を多く使い**、人気のある活動や楽しそうな雰囲気が伝わるよう作成
市役所の1階で**プロが撮影したクオリティの高い写真パネル展**にて、サロン活動を広報
地域行事があまりなく住民間の関わりが薄い地域は、**行政職員が教室やグループのちらしを直接配布**
町内会長など影響力のある方から通いの場参加について声かけ
医師の介護予防に関する広報紙等へのインタビューや特集、医療機関へのポスター貼りなど**医療専門家の活用**
介護予防の特集記事を**広報紙で組む**、講演での宣伝
地域にある**大型商業施設の協力による場所の提供とデジタルサイネージやHP掲載の宣伝**
企業の取り組み、民間業者の事業など、**資源マップの作製や情報整理と提供に力を入れた高齢者の自主性促し**
委嘱している**地域の見守りボランティアが声掛け**
友人・知人を誘いたくなるよう市職員が**場の盛り上げと難易度の低いレベル設定**を行い、参加者に友人・知人を誘ってきってもらうよう依頼。
参加者に**次の案内配布**。休んだ方には**チラシを家へ持参したり、会った時のリマインド**で参加勧奨

事業理念と意思統一：中規模自治体

住民との信頼感醸成のために、**行政職員は訴えを放置せず、何かあったら駆けつけ、市民の声を聞くことに真摯に取り組む**
「**住民が気軽に参加できる開かれた場**」と「**地域の支え合い体制の充実**」を推進
サークル、サロン、クラブで活動内容の重複があっても、**通いの場の選択肢や機会**と考える
地域レベルでは社会福祉協議会等のサロンもあり、サークル、サロン、クラブなど活動内容や参加者の重複もあるが、参加者は豊富な選択肢の中から**移動手段や参加方法を都合に合わせて利用が可能**

立ち上げ支援:中規模自治体

住民主体の体操教室は、3か月と期間をきめて市が伴走支援し、必ず市から職員が参加し、肯定的雰囲気・受容的態度で、教室維持のモチベーションアップを支援

リーダーの不在や退いた場合への備えとして、立ち上げの段階から全員で準備から片付けまでの作業と過程を共有

企業からの立ち上げ提案や、住民から企業の場合等を活用しての開設希望の際は市が仲介施行

体操の実施、普及のために体操CDを作成貸し出しや、1年間の支援マニュアルを作成配布

設立補助金や物品・機材の貸し出し

設立相談があれば、講師が出向きサロンの設立ノウハウや不明点の説明や、実際のプログラム見学などで立ち上げ支援

継続への支援:中規模自治体

段階的に支援量を減らしていく事により、行政ではなく自分たちで作ったという当事者意識を醸成

運営者の交代のタイミングで、スムーズな交替のため1人に集中していた会計、運営などの業務を分担を促し

リハ職の派遣事業により、いつでも専門家の指導を受けられる体制にして内容の充実を図る

市職員が2年に1回の巡回訪問。立ち上げ時の5回連続、3か月後、6か月後など定期的な医療専門職による講話など継続支援

年に1回程度は全グループを訪問し、運営ボランティアが運営に関する相談をしやすい信頼関係を醸成

運営上の疑問や問題は、保健センターに電話かけてもらい常に相談にのり対応することで、運営のハードルを下げる

運動指導士の派遣(年1回は無料、2回目以降は費用負担)、歯科衛生士と栄養士がフレイル予防の講座をリーダーに行い、リーダーのクラブでの実施を支援

後継者・運営者不足の解消に、会計専門ボランティアやプロボノも検討中

組織連携・事業連携:中規模自治体

住民主体の通いの場を展開する市の関連課は常に連携を取りながら業務展開

圏域を超えた生活支援コーディネーター同士の情報交換の場の設定

行政が管轄するサロンと愛育会など市が委託する組織のサロンなどの地域での共存、リソースの相互活用

地域主体で立ち上げる、地域包括支援センターより小さな単位でのサポートセンター(閉じこもり予防や地域交流、体操など)の設置、情報交換会(年に1度)

地域包括支援センターがサポートセンターを支援、健康相談会等を実施

地域住民の昔からの強い結びつきが残っているうちの活動立ち上げ

コミュニティソーシャルワーカー、地区担当保健師、包括の3者で地域の情報を共有

愛育会のボランティアグループ(市内25地区)で、健康づくりのボランティア活動を活発に展開

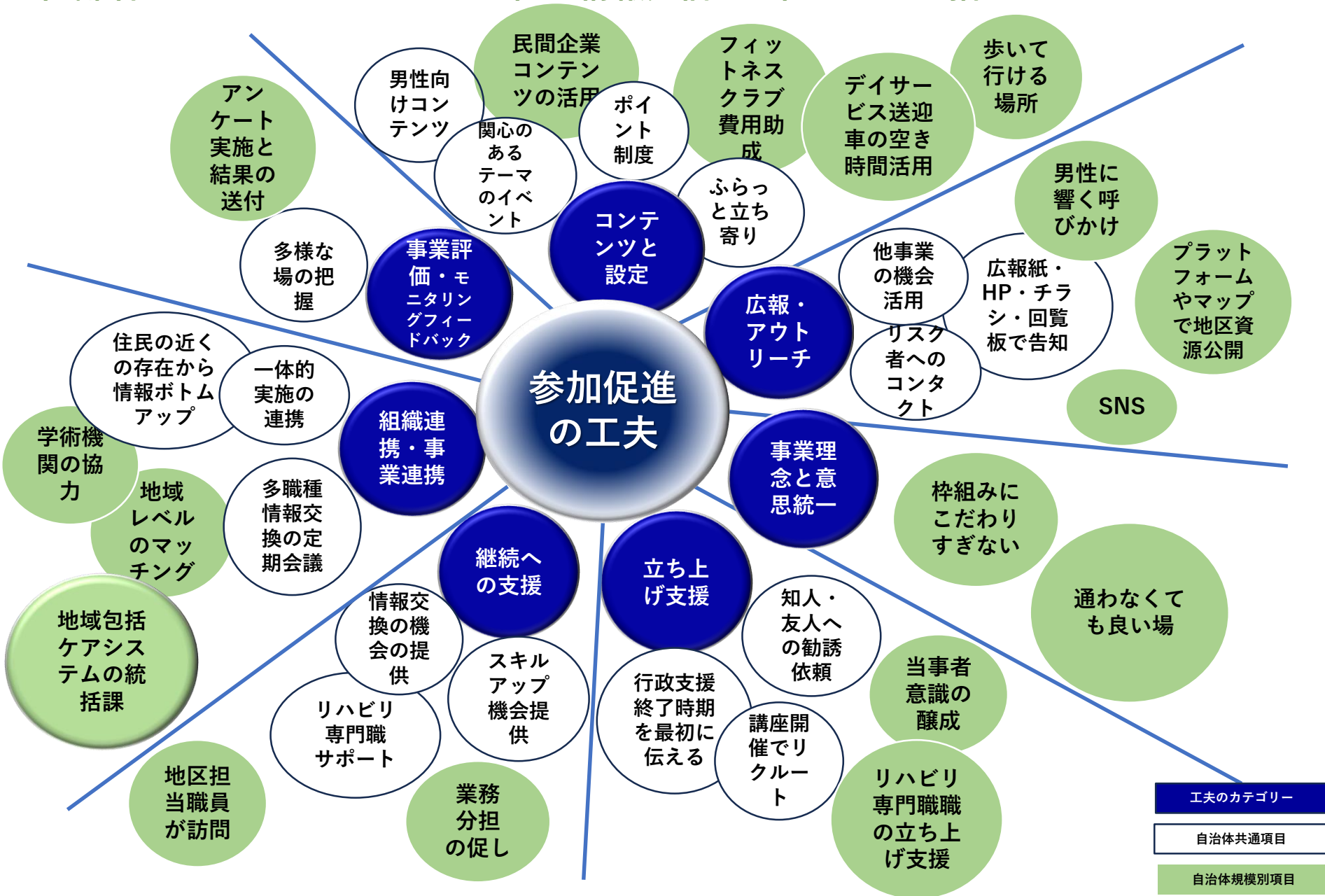
事業評価・モニタリングフィードバック:中規模自治体

いきいきチェックシートからリスクを算出し、全員に郵送でフィードバック。アンケート分析により、体操や運動の強度を変更したり、通いの場の課題把握など、データを様々な形で活用

アンケート調査を実施して個人の結果をフィードバック、参加のモチベーションを向上

通いの場の参加促進：大規模自治体

高齢者のセルフマネジメントを促す情報発信と地区レベル包括ケア



通いの場の参加促進：大規模自治体の工夫

コンテンツと設定：大規模自治体

リハ職などが定期的に体操教室の指導、フォローアップ研修、自治体の体操を作ってCDやDVD配布、支援マニュアルを作成など、**技術支援実施**
プロサッカークラブのトレーナーが高齢者向けにアレンジした体操教室
オンラインを活用した通いの場として**体操教室の民間サービス(実証研究)の導入**
区内9か所のフィットネスクラブ・ポニースクールと提携し、**個人への費用助成**
企業の空きスペースの活用など、**企業側からの申し出で地域レベルで活用**
デイサービスの送迎車を地域レベル連携にて参加者送迎に活用
歩いて行ける距離に設置

広報・アウトリーチ：大規模自治体

アンケートの結果返却、イベントや他事業、その他郵送時の際に**チラシ等の同封**
集まりが良くない場合に、**民間の地域情報誌**に広告を掲載
企業の取り組み、民間業者の事業など、**資源マップの作製や情報整理と提供**に力を入れた高齢者の自主性促し
地域資源マップに載っている自主グループは、**高齢者が自主的にアクセス可能、各団体にも受け入れを依頼**
ネット上のプラットフォームで地域資源を管理し、高齢者にも公開
区の公式LINEを活用した通いの場の案内
デジタルに強い層へのアプローチとして、**SNSの活用(Facebook, Xなど)検討**
デジタルサーネージの活用、または検討
通所Bの講座一覧と月間予定表を講座の会場や地域包括支援センターへ設置
冬場や農繁期を避けるなど、**開催月の季節性の考慮**
2人で申込みすると特典あるなど、意図的な繋がりづくりの仕組みを検討
男性専用の講座を開催
「シニアリーダー」、「地域のリーダー」という**男性の役割意識に響くネーミング**高い参加率獲得
前期高齢者をターゲットにオンラインによる**申し込みルート**を確保
悉皆調査にて各リスク重複者抽出、複数項目リスク者やどこにも繋がっていない人には**地域包括センターよりアウトリーチし通いの場の参加勧奨**、中軽度のリスク者にはアンケート結果返却時のマップやイベントちらしの同封
KDBシステムから低栄養者を抽出して栄養相談を行い、地域の活動も一緒に紹介

事業理念と意思統一：大規模自治体

事業や参加資格など対象者の枠にとらわれすぎず、**どこかに参加することを重要視**
就労にむけた企業との連携、民間サービスの活用、ポイント制度をつけたスマホアプリの導入など、「**通わなくても良い社会参加促進・健康習慣**」を目指してきた。行政ではなく自分の資金を使い、自分で選択し行動するセルフマネジメントを目指す

立ち上げ支援：大規模自治体

別の事業で養成したボランティア講師の、**卒後の活躍の場**として通いの場を活用
立ち上げ時の資金サポート
リハ職による体操グループへのフォローアップ研修や立ち上げの事務的支援、悩み相談、定期的な交流の場の設定

継続への支援:大規模自治体

補助金をつけないサロンの運営方法を今後検討中

自主グループにおいては、会計や報告その他の役割を分担するよう声掛け

地区担当職員を置き、年に2回は通いの場を訪問し、参加者や主催者の意識向上や個別相談しやすい環境の整備

研究者や理学療法士など外部専門家の助言協力を得て通いの場を運用

行政の呼びかけではなく自分たちが必要だから場を作ったと思える働きかけを繰り返し行い、過度な依存を避け自立にむけた当事者意識の醸成

組織連携・事業連携:大規模自治体

一体的実施として、保健師が通いの場へアウトリーチ実施

高齢者サロン同士の意見交換会を実施(一部の地域包括支援センター)

独居高齢者、高齢者世帯に対して民生委員・児童委員による状況把握を行っており、地域の見守り基礎情報となりその他の支援機関に共有

通いの場に苦手意識がある人にもリーチするため、企業や学術機関と連携を行いツールの活用や実証研究を通し新しい通いの場の創出と試行錯誤

社会福祉協議会で行う地域づくりのボランティア育成、地域資源管理のICTを活用した連携を検討

市の地域包括ケア担当課により、各課管轄による複数の介護予防事業を横断的に管理

生活支援コーディネーターが葬儀場、ファミリーレストラン、ドラッグストアなど企業の社会貢献ニーズと高齢者の社会参加のニーズを地域レベルでマッチング

認知症サポーター養成講座や認知症カフェ開設講座への企業からの参加

健診で低栄養やフレイルを指摘された方への講座や自主グループへの参加勧奨

地域への理解と関わりの促進のための行政職員(福祉介護職)の地区担当制と定期的情報交換会議

参加者の意識向上と個別相談の機会として、区の地域担当が通いの場を定期訪問(年2回)

大学と協定を締結し、長寿健診のアンケート結果分析の協力を得て内部の検討材料、他部門との意見交換や地域分析に活用

他課で実施している介護予防教室の機会をとらえ、参加者に通いの場開催の情報提供

事業評価・モニタリングフィードバック:大規模自治体

毎年チェックシートを基にした高齢者アンケートを後期高齢者全員に送付し悉皆調査施行、7つのリスクに分けて結果を郵送でフィードバック。アウトリーチや経年観察のためのデータとして管理

通所サービスB、サロンに関しては効果があるかを今後評価を行う予定

重複を精査し、自信をもって通いの場の参加者だと言える通いの場参加実人数だけを厚生労働省へ報告

企業との実証研究や、KDBのデータやアンケート結果をAIを活用したリスク評価することを検討中

大規模な地域資源情報整理のために、プラットフォームアプリを活用して管理、実数などの統計把握や集計、地域でのマッチングにも活用

通いの場における握力測定と参加者アンケートを実施し、その結果を各グループへフィードバック。市のポピュレーションアプローチの指標とも連動させることで評価として活用

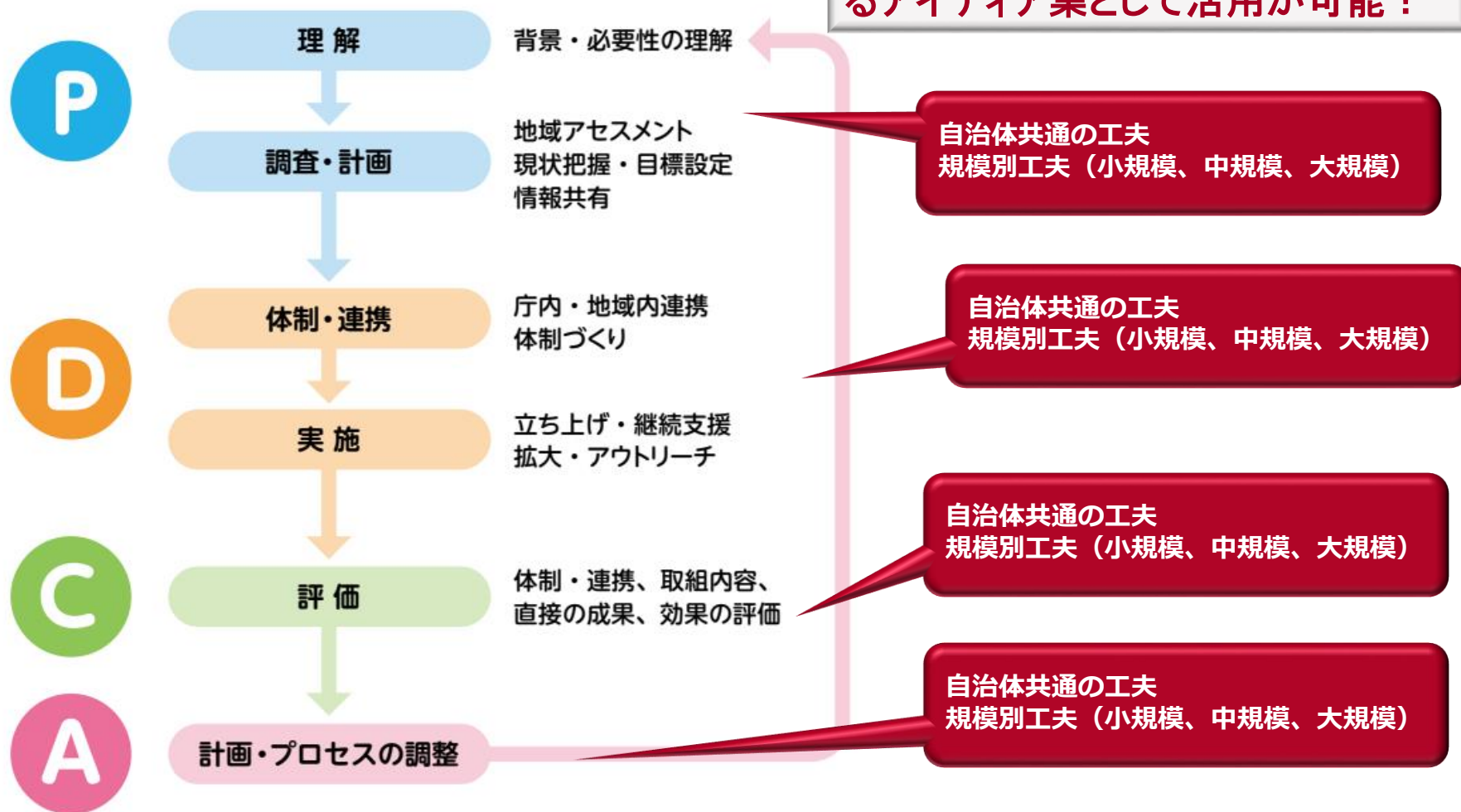
本日の内容

- ・ 事業の概要
- ・ 通いの場と工夫のフレームワーク
- ・ 通いの場参加促進の工夫
- ・ 工夫の活用方法

参加促進の工夫の活用

図：通いの場におけるPDCAの展開

これからの多様な場の展開にむけて、PDCAのあらゆるフェーズにおけるアイデア集として活用が可能！



まとめ

- ・ヒアリングによって、自治体共通の参加促進における工夫と自治体規模別の参加促進の工夫が抽出できた。
- ・自治体共通の工夫は、住民主体の通いの場の展開時の基本的な要素として活用ができる。自治体規模別の工夫は、自治体の事情に合う工夫を選択するアイデア集として活用できる
- ・これからの多様な場の展開に向けて、あらゆるフェーズにおけるアイデア集として工夫の活用が可能
- ・詳細の報告書は、厚生労働省HPより公開予定